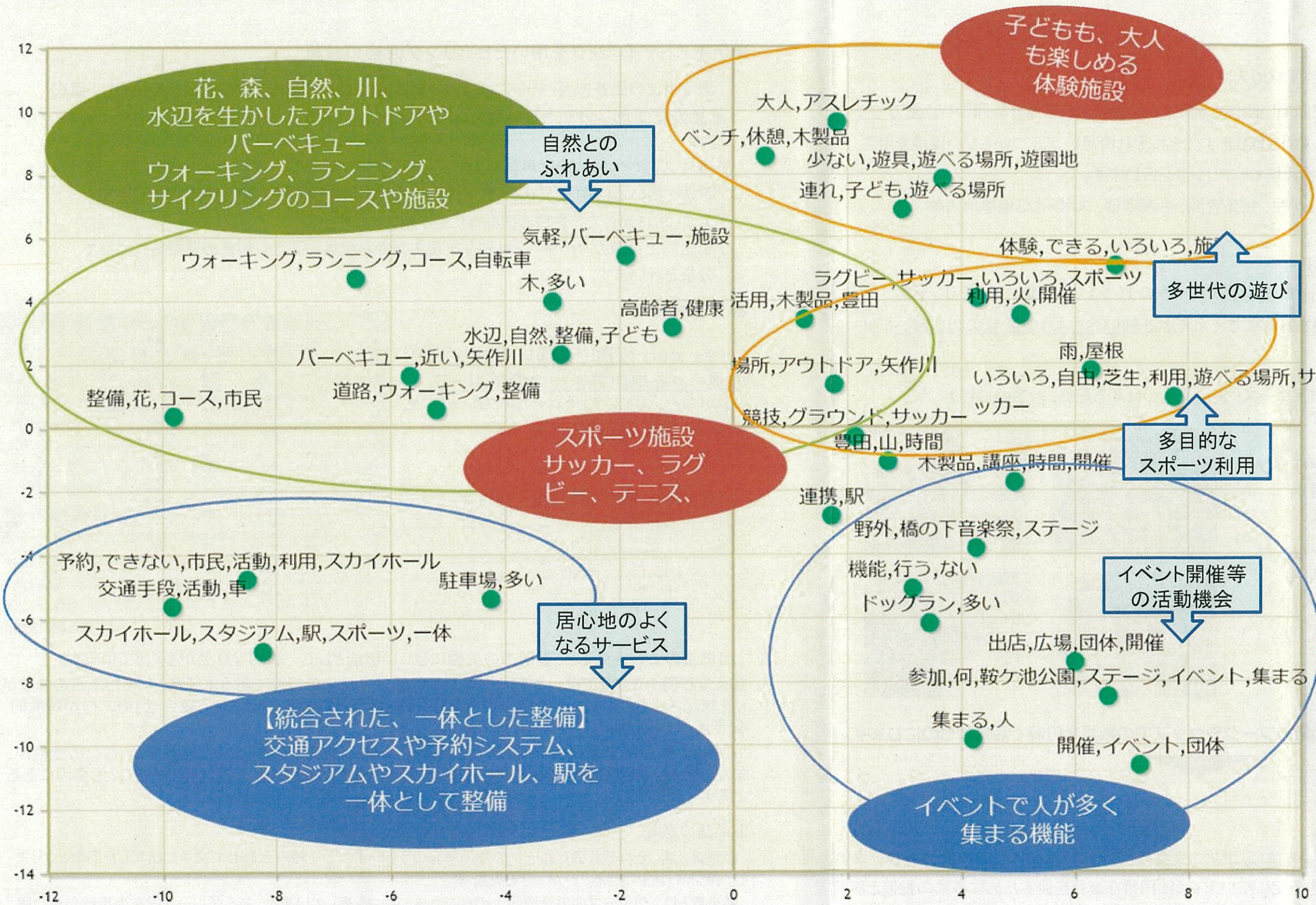


■中央公園の空間づかい-市民志向の把握-テキストマイニング分析

前頁で紹介した単語のグループについて、多次元分析による集計を行いました。下表は各グループ同士の相対的な距離をプロットした多次元データを二次元的に再解釈した表です。ここでの各グループ同士の距離とは発言の背景(意図や要因)のつながりの距離の事です。近いグループ程似た背景から出た意見であり、遠いグループは対立した(関係の薄い)意見と解釈する事ができます。



発言の背景が似ているまとまりとして、スポーツ・ランニング・サイクリングといった運動、大人と子供が楽しめる遊び、音楽やイベントでの利用等が確認できます。

個々の意見として、市産材の活用による木のふれあいや活用、憩いの場としての提供、サッカーやジョギング等のスポーツ利用への期待が多く見られます。

また、飲食や休憩といった居心地のよくなるサービス、イベントなどの活動機会の提供など、公園として一般的に求められるまとまりに加えて、森や川、木を主体とした自然との触れ合いといった意見と、スポーツを主体としたスタジアムとの連携に係わる意見が確認できます。

以上の結果から、中央公園第二期整備に対し、森林・木への志向とスタジアムとの連携への志向が強くみられると言えます。

■中央公園の空間づかい-市民志向の把握

中央公園第二期整備区域の空間づかいを考える上で、市民ヒアリングやワークショップを展開する事で、豊田市民の「市民志向」を見出し、真の公園づかいを明確にしていきます。

■市民ヒアリングの実施

キーマンヒアリング(団体代表者 目標100人)

⇒つかうとつくるの運営に携わる可能性の高い団体を選定し、各団体の代表者を訪問して公園でやりたいことやイメージする空間像について聞き取ります。それぞれの思いがぶつからない環境を用意することで、より自由な意見を引き出す環境でヒアリングを行います。

ヒアリング団体:子育て、子ども育成、学生、観光資源、生涯学習、スポーツ、地産地消等

グループヒアリング(目標100団体)

⇒キーマンヒアリングを行った団体において、団体メンバー等の10~20人を集めたヒアリングを実施します。同時に異なる角度の意見を募る事でそれぞれを補い合うような意見の出し合いを狙います。

中央公園第二期整備をより市民ニーズに応えたものにするため、以下の日程で市民ヒアリングを行っています。

- 5月7日
~6月30日
キーマンヒアリング
(団体代表者)
90団体→90人
- 7月1日
~8月15日
グループヒアリング
(団体メンバー)
57団体→677人



現時点での回答内容(キーマンヒアリング)を別紙に示します。

ヒアリング結果をとりまとめ、その後のワークショップでの議論を円滑で活発なものにします。

■市民ワークショップの実施

⇒ヒアリングに加えて市民ワークショップを実施し、求める未来像に対する積極的な議論の場を設けます。議論の場となるワークショップは二回を予定していますが、円滑な進行を促すために事業の把握と事前の顔合わせを目的としたプレワークショップも実施します。

■テキストマイニングを用いたヒアリング回答の分析

現時点での回答内容(キーマンヒアリング)に対してテキストマイニング分析を使用し、自由意見の定量的な分析を行いました。

※テキストマイニングとは単語のつながりや分布のパターンを定量化し、統計学的手法を用いて自由意見の集合に隠れた意味や本音を読み取りやすくする手法です。SNSから流行を探る調査等にも使用されます。単語同士の繋がりの強さと単純な出現の量から意見の強さや発言の背景等について分析を行います。

■分析結果

以下の表では2個以上6個以下でつながりの見られる単語群を一つのグループ(J01,J02...)としていて、それぞれのグループに見られる出現量と結束度をまとめています。

群	出現量	結束度	ピース1	ピース2	ピース3	ピース4	ピース5	ピース6
J10	8	1.87	雨	屋根				
J11	8	1.29	水辺	自然	整備	子ども		
J12	7	2.09	野外	緑の下書き	ステージ			
J13	6	1.55	ラグビー	サッカー	いろいろ	スポーツ		
J14	6	1.53	出店	広場	団体	開催		
J15	6	1.53	開催	イベント	団体			
J16	6	1.29	駐車場	多い				
J17	5	1.44	少ない	遊具	遊べる場所	遊園地		
J18	5	1.32	豊田	山	時鐘			
J19	5	1.3	気軽	バーベキュー	施設			
J20	5	1.24	木	多い				
J21	4	1.31	ベンチ	休憩	木製品			
J22	4	1.3	活用	木製品	豊田			
J23	4	1.29	機能	行う	ない			
J24	4	1.28	利用	火	開催			
J25	4	1.18	道路	ウォーキング	整備			
J26	3	1.61	高齢者	健康				
J27	3	1.49	参加	何	緑ヶ池公園	ステージ	イベント	集まる
J28	3	1.47	競技	グラウンド	サッカー			
J29	3	1.46	交通手段	活動	車			
J30	3	1.28	バーベキュー	近い	矢作川			
J31	2	1.33	連携	駅				
J32	2	1.3	大人	アスレチック				
J33	2	1.26	木製品	開催	時鐘	開催		
J34	2	1.21	ドッグラン	多い				

森・川のつながり

出現量の上位を見ると、豊田市の公園に欲しい機能として一般的な意見が多く出ています。加えて右側J10以降では、大きく分けて「川や森、さらにその資産である木製品といった水系のつながりを想起させるような組合せ」と、「スタジアム等との施設連携を想起させる組合せ」の二つが特徴的な要素として出現しています。

これは、個々の意見において、木製遊具等での市産材の活用、木によるふれあい・憩いの提供が、また、サッカーやジョギング等のスポーツ利用への期待が、意見として多く見られたことも要因にあると考えられます。

※単語の意味

出現量とは、それぞれのグループの中の単語のうちいずれかを組み合わせて文中に出現した回数となります。(例J01)体験できる、~ができる施設等

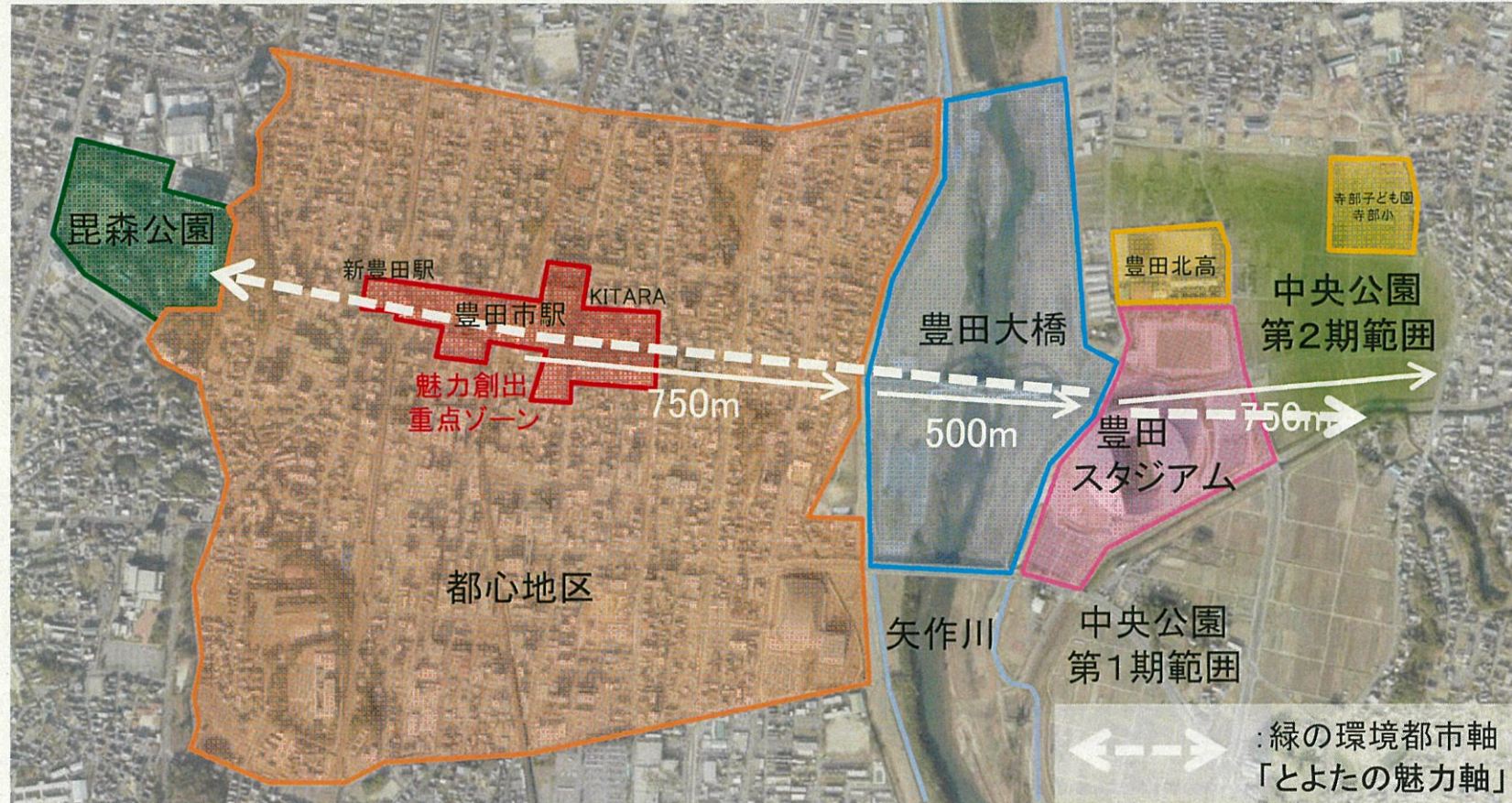
結束度とは、グループ内の単語同士の結びつきの強さを表しています。あるグループ固有の単語が多い程結束度が高く、逆に別のグループでも出現する単語が多い程結束度が低いという結果になり、結束度の大きいグループはより強い意見であり、限定的な意味を持ちやすいグループとなります。

■新しい中央公園のコンセプト

中央公園第二期整備のコンセプトを、市民ヒアリング分析による市民志向を踏まえ、とよたの都心500haの中での役割と、東海豪雨などによるこの地の地歴から導きます。

平成30年8月27日(月)
中央公園第二期整備
市民ワークショップ
キックオフ配布資料

都心地区における役割分担

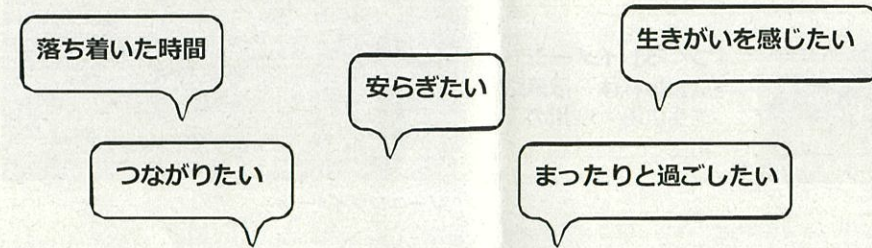


・とよたの都心は、都心地区 196ha や毘森公園、矢作川 などを含んだ 500ha の範囲で、市民生活の舞台となっています。

■とよた都心 500haにおいて求められる役割

「豊田市緑の基本計画」に基づき、今後は物理的な緑のつながりに加えた質の向上、すなわち本質的な緑の体験の提供が求められます。

都心におけるオアシス的空間を実現するためには、このような質の高い緑の体験を確保し、さらに市民の思いのこもった愛され続ける空間をつくる必要があります。



⇒「とよた・都心のオアシス」

■中央公園が持つ地歴の継承

市町村合併のきっかけとなった東海豪雨とその舞台の記憶を次世代へと受け継ぎます。

この場所で「森林の大切さ」を実感するためには、木と水の循環を見せることが重要になります。

そして、その体験を市民の心に根付かせるために魅力的な空間づくりを考える必要があります。

中央公園第二期の整備コンセプトは、

…都心における役割と市域における役割の両面を持つ…

「とよた都心のオアシス」=木や水、自然の大切さに触れながら、

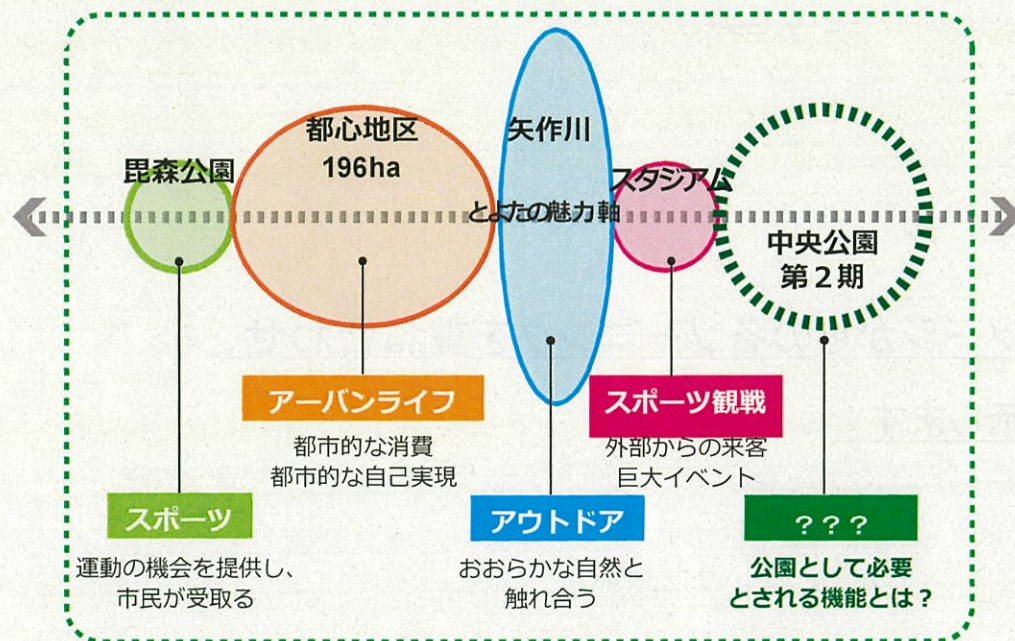
市民の思いを実現するオープンスペース

「森林の大切さ」をレガシーとして伝える = (仮称)フォレストレガシーパーク

オアシス的な居心地と森林の大切さを実感させ、その体験を市民の心に未来永劫根付かす公園となる。



とよたの都心 500ha



・ 都心500haでは、生活に必要な機能が満たされていますが、今後さらに求められるのは、都心空間だけでも豊かな自然の中だけでも実現できない「都心のオアシス的空間」です。

・ そこでは都市のストレスから解放された心地よい緑のオープンスペースであると共に、市民一人一人が自分たちの庭のような、市民の思いが実現できる空間づくりが必要と考えます。

■5つのテーマの公園づかいとゾーニング

5つのテーマを実現する公園づかいのイメージから、必要な空間構成としてのゾーニングを考えます。

①緑・川・自然・森林に囲まれた癒しの空間づくり



渋川の再生



森林散策



ゾーニングイメージ

グリーンインフラとして機能を持たせた緑の繋がりを、外周部中心に展開します。



大屋根の広場

「つくる」イメージ
⇒広葉樹林地・散策路
芝生広場・渋川の再生

④多世代・多国籍・他地域のつながりをつくる空間づくり



軽トラ市



ピクニック



ゾーニングイメージ

「つくる」イメージ
⇒ゲート広場・芝生広場
コミュニティ拠点

多世帯が多様な活用により交流し、心地よい居場所を、計画地全体で展開します。

マルシェ

②スポーツ・文化を向上させる空間づくり



サッカーグラウンド



ランニング



ゾーニングイメージ

サッカーやラグビー、音楽活動を、スポーツの中心である豊田スタジアムと連携しやすいゾーンで展開します。



コンサート

「つくる」イメージ
⇒グラウンド
散策路
多目的広場

⑤生きがいつくり・市民が育てる空間づくり



市民普請



教育施設との連携



ゾーニングイメージ

「つくる」イメージ
⇒ハーフェイド広場
間伐材アスレチック
ピオトープ・散策路

市民自らがフィールドをつくりながら多世代が交流する場を、周辺施設と連携しやすいゾーンで展開します。



環境学習

③家族で楽しむ・若い力を育てる空間づくり



レストラン



プレイパーク



ゾーニングイメージ

来街者を迎え入れ、都心からのとよたの魅力軸にて、賑わいを積極的に生むゾーンを展開します。



アスレチック

「つくる」イメージ
⇒ゲート広場・民活施設
レストラン・プレイパーク

以上、つかうイメージからの各ゾーニングを重ね合わせ、計画の骨格を示します。